

福岡市地下水汚染対策委員会議事録

平成19年8月28日(火) 15:30～
市役所15階第2会議室

委員長の選任

井上委員長、島田副委員長に決定

議題協議

1. 平成18年度に判明した地下水汚染について(資料1)

(1) 城南区東油山 四塩化炭素汚染

【委員の主な意見】

10mの深さの井戸で出てくるというのは気になる。

四塩化炭素は肝臓毒性の強い化学物質で、有機溶剤中でも恐ろしい化学物質の一つである。

昨年1度調査しただけなのでもう1回ぐらい調べてみてはどうか。

流れは山のほうからなので 〇〇の井戸が浅井戸であれば問題はないかもしれないが、深井戸の場合はこれから出てくるかもしれない。通常検出されるものではないので、下流側に調査井戸を設置するか、〇〇の井戸を対象として調査していくのか、考える必要があるのではないかと。

四塩化炭素は重いので下にいく。そのため10mくらいの浅井戸での検出であっても、下流側に行けばもっと深いところに行くのではないかと。

四塩化炭素は10年前に生産中止であるが、ほかの溶剤が使われていることもある。

井戸が飲用でなければ問題ないが飲用の場合は問題ではないかと。

元々近辺に木工所など点在しているところなので、ほかのところも可能性としては否定できない。

【事務局対応】

四塩化炭素の性状・有害性を勘案して 〇〇のいずれかの井戸を有機塩素系物質についてモニタリングしていくこととする。

(2) 南区三宅 ふっ素汚染

【委員の主な意見】

過去のふっ素汚染が判明した場所とその濃度を明記したほうがよい。

地下水の水温は大体その地区の平均気温に一致していると言われており、福岡の気温は17～8 くらいなので検出された井戸の水温は3～4 高い。水温が高いのは温泉水など地下からの可能性が考えられる。

付近に博多温泉がある。博多温泉の水質データは持ってきていないが、浅いところな

のに温度が高い温泉である。

この地域の場合、温泉の影響のほうが強いかもしれない。福岡の温泉はふっ素が高い。50mg/L くらい入っているところもある。10,20 はざらである。

今回検出された程度のふっ素濃度はたいしたことではない。

ふっ素が高いのは東西に花崗岩があるためである。花崗岩のなかでも早良型花崗岩が地下にあるとふっ素が高い。そしてこれは溶出しやすい。さらに地質的には当該地区は段丘であり水はけがいい地区であることがわかる。そのため段丘堆積物が溶けてふっ素が高くなった可能性もある。

海の影響ではないと思われる。地層的に違う。水温が高く、地質的に考えても温泉の影響の可能性が考えられる。

(3) 西区徳永 ふっ素・ほう素汚染

【委員の主な意見】

ここも段丘で回りが湿地帯である。湿地帯から出ていけばふっ素・ほう素とも海水起源でいいが、ここは高台で、また三宅と同じで花崗岩質と思われる。

この付近にほう素の温泉はない。この辺りの温泉は水温 16~7 度くらいでラドンが高く、沸かして使用している。特殊なものは見あたらない。元々福岡県の温泉水にはふっ素、ほう素が多い。

花崗岩が削られて溜まった堆積物などから地下水を上げている可能性はある。

過去にほかにもホウ素が出た事例があるので、その状況ともあわせて協議していく必要がある。

2. 福岡市地下水概況調査について(資料2)

【委員の主な意見】

概況調査も二順目に入っていることであるし、GISなどでマップ上にデータを加えていき全体的に見られるようなシステムがあるといい。

データ化し、一目で分かるようなものがあれば大筋が見えてくることもある。

【事務局対応】

来年度中をめどにデータ化していきたい。